

井上恭儀殿
相方恭儀殿
大山恭儀殿
川村恭儀殿
佐々木恭儀殿

別紙譯文之通、高知具令ヨリ電報有之
候ニ付為御旨不取敢供高覽候也

明治十六年二月三日

内務卿山田顯義



太政大臣三條實美殿

二月二日午台三時高知県ヨリ

暗号譯

当果ヨリ自由黨員三十名先前後出京
セリ妙年輩多し尚出京ヲ固ルモノ二十
名アリ金策中ノ由相聞工視察中ナリ
追テ詳細御報ニ及ブ

内閣省

別紙の抄り等一馬の抄り電報
とあるは西尾也

二月三日

内閣書記

大政大臣殿
井木参議殿
井上参議殿
西原参議殿

大政官

加方参議殿
川村参議殿
大山参議殿
伊藤参議殿

高知縣下自由党目今ノ情况別紙ノ通報
告有之候ニ付為御會供電覽候也

明治十六年二月十四日

内務太輔土方久元



太政大臣三條實美殿

高知県下自由党目今ノ景况

県下自由党ハ昨年春末外面頗々狂暴ノ状ヲ顯
 シ内部ノ勢力ニ至リテハ甚々衰頹ヲ極メ十月板
 垣洋行ノ事変スルニ及ニテ益々党勢ヲ減縮シ殆
 ント流離解散ノ景状ヲ来レシ立志社党ノ重立々
 ル者專ラ黨勢ノ回復ヲ勉メ或ハ諸處ニ公告シテ
 懇親会ノ催シ或ハ演説ヲ名トシテ党衆ノ集会ヲ
 催シ或ハ巻將漢條等ノ在ヲ以テ衆ヲ集メ黨勢ヲ鼓
 動スルニ最モ尽力セルト魚モサシモ勢ヲ復スルノ景状ナ
 シ年来ニ至リ國會準備ノ事ヲ論シ政府ニ呈出セン
 トスル請願ノ草案 趣意集會形同出版ノ諸條
例ヲ廢止セラシメテ要求ス 並ニ立憲
 政体ノ解ト号スル諸説ヲ著述シ之ヲ印刷シ
 數十ノ党員ニ賦与シ十六年一二月ヲ期シテ請

願ヲ發行シ候セテ各地ノ党員ト東京ニ相会
 シ私立國會ヲ開設スルノ旨趣ヲ党員中ニ
 揚言シテ衆徒ノ勢ヲ鼓動シ以テ隱然同
 盟者鼻集ニ尽力シテ社党堀江貞孝中
 江篤介東京是ニ私塾ヲ開キ外函ニ名ヲ九州
 ノ各地方ニ派遣シ同盟員ヲ誘ヒ先ツ大坂ニ
 會シテ東京ニ趣カントスルノ目的ナリ立志社長山田
 平左エ門ハ十二月廿四日ヲ以テ本県ヲ發シ大坂ニ赴キ該党
 ノ党員立憲政黨負事ト交際ヲ遂ケ會口愛知皇士
 族内藤魯一未坂ニ十六年一月六日七日ヲ期シテ愛知ニ関西
 自由党懇親會ノ企アリ山田平左エ門ハ内藤魯一ヲ誘
 ヒ応シ立憲政黨負河津祐之ヲ愛知ニ赴キ兩日ノ
 懇親會ニ連リ會員共百六拾六名在リ内百五拾名系愛
知地方ノ者ニシテ其

他ノ各地方未會々高知縣士族森脇直樹自由党ノ重立
會ノモトニ係ル福島縣ヨリ陸路各地方ヲ經テ愛
 知ニ来リ此會ニ連リ福島縣暴動ノ事跡ヲ詳カニ
 會員ニ演説シ大ニ自由党員ノ感動ヲ興シ狂暴ノ
 氣焰ヲ生セシメタリ山田平左エ門森脇直樹ハ會ヲ
 終リ大坂ニ返リ滞在ノ末山田平左エ門ハ一月廿四日返
 縣ニ森脇直樹ハ大坂ニ寄留セル本縣人寺田寛ト供ニ
 二月一日返縣セリ山田平左エ門ノ返縣セルヤ屢々社
 党ノ集會ヲ催シ各地自由党ノ景状ヲ矯リ勢力
 最モ盛大ナルノ状ヲ發シ森脇直樹ノ現状目撃ニ係ル
 福島地方ノ景状ヲ陳シ以テ党員ヲ鼓動シ勢カク奮起
 セシメントシ立志社副長タル島地正存等最モ盡力セ
 リ其旨趣目的ノアル処ヲ察スルニ各地共自由党ノ勢

力益々衰頹ニ傾向シ加フルニ資力既ニ竭盡シテ又如
何スルノ術策ナク窮縮ノ極ニ至リ或ハ飢渴ニ迫リ餓死
ニ頻シ寧ロ死ヲ潔ニ決シ主義ノ為メニ斃レトシ狂暴
ノ舉動ニ陥ラレトスルノ景状アルニ投シ種々ノ才畧ヲ以テ
縣下過激ノ党負テ各地ニ出シ以テ漸次東京ニ會セ
シノ各地出京ノ党負ト共ニ謀リ或ハ各地方ニ出没セ
シノ事ヲ縣外ニ生セシノ一事多故アル毎ニ党衆ニ激昂
ノ氣焰ヲ弄シ屢々禍害ヲ醸生シ益々國事多端ノ
煩シ来シ政府ヲシテ國事ノ至敏系ニ耐ヘサラシメントス
ルノ圖ヲ爲シ以テ我意ヲ逞フセトスルノ福心ニ外ナラズ茲
ニ於テ山田平左衛門森脇直樹カ大阪滯在中頻リニ
縣下ノ社党ハ時々方向ヲ通信シ飯縣早々數回ノ集
會ヲ催シ其集會ニ於テモ益々党負ノ出京氣ニ他縣

行ヲ鼓動シ或ハ方畧ヲ以テ石川縣ヨリ自由党千七
百人斗リモ出京ノ目論見ナリ高知自由党ノ出京氣
幾許ナルヤノ旨諫縣ノ党負ヨリ變名ヲ以テ片岡健
吉ヘ照會書ヲ郵送シタルノ状ヲ設ケ衆党ノ間ニ流
言セシメ益々衆人登果ノ熱心ヲ醸シ小年子弟輩ハ
窃ニ家金ヲ持出シ或ハ器具ヲ賣却シテ些少ノ旅費
ヲ整ヒ父兄ニ忍ヒ窃ニ縣地ヲ發スルモノ數名ニ及
ヘリ其登縣ナル者ノ景状タル現ニ該地ニ事アル者
ノ如シ甚々勇躍奮進ノ形ヲ顯セリ業就ラズンバ再
ヒ御里ニ飯ラザルノ詔ヲ發言セル趣ナリ其旅費ノ
如キモ社党重立タルモノヨリ多少支給セシ由相聞
ヘリ社党ノ重立タル者ハ自由党本部ノ會議並ニ請
願一茶等ヲ名トシテ追々出京スルノ状ヲ揚言セリ

其実重立タル者ハ容易出京スルノ景状無之全ク一
時ノ方畧ニ外ナラザルモノ、如シ然レテ小年輩並
ニ党負中等以下ノ輩ニレテ尚追々登縣セントスル
者數十名アリ、專ラ金策等ニ尽力セリ本縣下二三ノ
商人共ヨリモ若干出金スルモノアリト云フ其昨年
十二月末頃ヨリ本月ニ及ンテ登縣セシモノ並ニ追
々登縣ノ目論見ニテ未タ登セザル者ノ姓名明瞭セ
サル者ハ別紙人名附ノ通りニテ其外數名ノ登縣者
アル趣相聞ユルモ窃ニ出向セシ者多キニ係リ未タ
姓名詳カナラサル者多シ專ラ視察中ニ有之候事
森脇直樹ノ在阪中本縣人共ニ密諾シテ曰ク党勢既
ニ迫ル予島地正存ト謀リ党負ヲ煽動シ又久平間ノ
事跡ニ適リ專ラ暴舉暗殺ヲ行ハントスト其其意氣

ノ駐ムヘカラザルヲ察シ之レヲ拒絶セリト云フニ
月一日森脇直樹ノ寺田寛ト保々归縣スルヤ頻リニ
諸処ニ奔走シテ党衆ニ接シ島地正存山田平左衛門
等ト屢々相會シ密談スル趣相聞ヘリ其舉動未タ詳
ナラス專ラ視察中ニ有之候事

明治十六年二月三日

明治十五年十二月下旬ヨリ本年二月五日迄各地
方ヲ經テ出京、目的ニテ登縣セシ者左ノ如シ

立志社員 土佐郡小高坂村士族 堀江貞彦 三十七世

嶽洋社員 全 全人弟 某 三十一

全 全 村越直光 三十一

全 全 北代十春 三十三

登陽社員 全 潮江村士族 青木茂春 三十五

嶽洋社員 全 小高坂村 全 田所正興 三十一

有信社員 全 江、口村 全 西川真滯 二十

全 全 森田喜久馬 三十三

嶽洋社員 全 小高坂村 全 林 美正 三十一

有信社員 全 帶屋町 全 松本成喜 三十七年

有信社	全	江ノ口村士族	宮田速稻	下詳
嶽洋社	全	小高坂村	小川又雄	三十一位
精到社	全	久方村	岡崎賢助	三十四
嶽洋社	全	小高坂村	島本楠弥太	三十三
有信社	全	江ノ口村	吉川楠太郎	十八
全	全		弘瀬松枝	二十
全	全		國澤利正	全
全	全		森澤孝磨	三十二
嶽洋社	全	小高坂村	長谷川某	十八
有信社	全	江ノ口村	田中安太郎	二十五
嶽洋社	全	南奉火町	大野正氣	十七
全	全	小高坂村	小島某	全
			宇田次男	三十三

全	全	全	緒方正雄	二十五
全	全	大川筋	原茂樹	三十四
全	全	本丁	濱田正稻	三十三
全	全	小高坂村	岡本幸吉	三十四
全	全	潮江村	中西友吉	三十三
全	全	大川筋	菅春海	二十
全	全		日野輝光	全
嶽洋社	全	上野	寺田栄実	三十三
全	全	大川筋	菅重中	三十四
安	全	安藝郡奈半利村	北川忠醇	三十四
有信社	全	土佐郡	福留直躬	不詳
嶽洋社	全		笹村駒太郎	全
全	全	小高坂村	岡本秀之	三十三

嶽洋社員

森 増吉 不詳

全 全 小高坂村士族

須田周太郎 三十二位

全 全

近森光次郎 不詳

全 全

山中繁馬 二十〇

全 全

川田為藏 不詳

全 全

速見市次郎 十八九〇

全 全

近沢銘吉 十七八〇

全 全 潮江村全

平石氏人 不詳

全 全

三木 昌 全

全 全

岡本正雄 全

登陽社員

全

不詳

前同断ノ目的ニテ不日出登セントスル者九ノ如シ

立志社副長 土佐郡水通丁士族 島地正存 三十四〇

嶽洋社員 全 北奉公人専全 明神安久 三三〇

全 社幹吏 全 小高坂村全 安藝清香 三三三

精到社長 全 久方村全 島村 勇 三三三

有信社員 全 本野全 五藤正家 三三四

土方内務大輔上

申高知縣自由

党目今之情況也

急催
高知縣
也

二月十日 内閣書記官

大印大重印

左大臣殿
 大木重清殿
 西郷重清殿
 井上重清殿
 松方重清殿
 川村重清殿
 大山重清殿
 佐々木重清殿

見弟中修多
 知縣士族前野久米京都府士族長沼
 静藏等首唱トナリ政府へ建言スル所
 アラント會合スル趣別紙之通高知縣
 令ヨリ報告有之候ニ付御會ノ為メ此
 段内申仕候也

本
 川
 村
 大
 山
 佐
 本
 山
 村
 大
 山
 佐
 本

知縣士族前野久米京都府士族長沼
 靜藏等首唱トナリ政府へ建言スル所
 アラント會合スル趣別紙之通高知縣
 令ヨリ報告有之候ニ付御會ノ爲メ此
 段内申仕候也

明治十七年二月廿九日
 内務卿山縣有朋



太政大臣三條實美殿

当縣下旧守家ノ者共先般未熊本山口ノ西縣ヲ初トシ其他各
地ニ在ル同主義者ト頻リニ相往來シ国事ニ関シ密会候処今回
京都府士族長沼静胤等カ魁主トナリ同地（或ハ滋賀縣下ニ在テ全
三井寺トモ云フ）國ノ同志相會合シ政府ニ建言セト既ニ本月九日当縣ヨリハ前野
久米（田ノ藩士ニシテ同党中 稍々名望
アリ近ク山内家々令ヲサセシモノ）ナル者發達ヤリ聊モ右旧守党ノ主
旨ヲ察スルニ自由改進黨ノ如キハ所謂氷炭相容レカルモノニシテ彼ノ
党ヲ目シテ共和トモ云ヒ頗ル擯斥シ決シテ齡ヲ俱ニスルニ非ス今回
集會スルノ要項ハ去ル明治十四年十月ノ詔勅ハ國會願望者ノ勢
力旺盛ニシテ殆ント將ニ國家ニ敵セトスルノ狀況アルヲ以テ廟議茲
ニ定リ右詔勅ヲ煥發セラレタルモノナレハ今ニシテ詔勅取消スノ議
ヲ陛下ニ上言セカレハ廿三年國會開設ノ秋ニ當リ如何トモスルナ
シ矧ヤ野ニ民約憲法ヲ冀圖スルノ徒アルハナリ若シモ渠等ヲ

シテ宿志ヲ達シ得セシメハ大ニ祖宗創設ノ國体ヲ紊亂シ延テ
皇室ニ福害ヲ加フルホク未タ知ル可ラス云々著ノ論ヲ以テ
旧守古格ヲ慕ヒ自由改進ノ徒ヲ嫌フ而已ナラス稍々現政
府ノ政策ニ甘セサルノ情况アリト 虽氏彼ノ輕躁過激ヲ喜フ
徒ニ比スレハ大ニ徑庭アリ畢竟スルニ勤王一途ニ丹心シ目今
國家ノ大勢ニ疎ク守旧國家ヲ憂フノ切ナルヨリ同志相
會シ議ヲ朝廷ニ上書スルモノト存候即チ右前野久米等ノ意
見トシテ今回ノ會議へ提出セシ上書寫ハ別紙ニ相添御會進
及御報告候也

明治十七年二月廿一日

高知縣令田辺良顯

警保局長代理

清浦權大書記官殿

高知縣才族臣 呈等昨死再拜シテ書ス

天皇陛下上レ臣等聞ク天下之事之レヲ草テ而テ當テ得
レ則チ民悦テ以テ從テ之レヲ草テ而テ當テ得セハ則チ民憂
テ以テ離ル國家中興以テ來變更アル毎ニ士民率テ悦ハス
臣等モ亦必切ニ疑フ所アリ然ト臣等天下ニ大物ナリ改革ハ大事
ナリ數年久テ経ルニ非レバ未タ邊ニ是非スヘカラス是ヲ以
嘿ニ効ノ成テ候ツテ十有餘年而ノ德澤未タ洽カラス士民
困窮風俗頹敗シ盜賊公行獄訟日ニ繁ク凡國家ノ弊
往時ニ倍スル者ハ何ソヤ伏テ惟ルニ

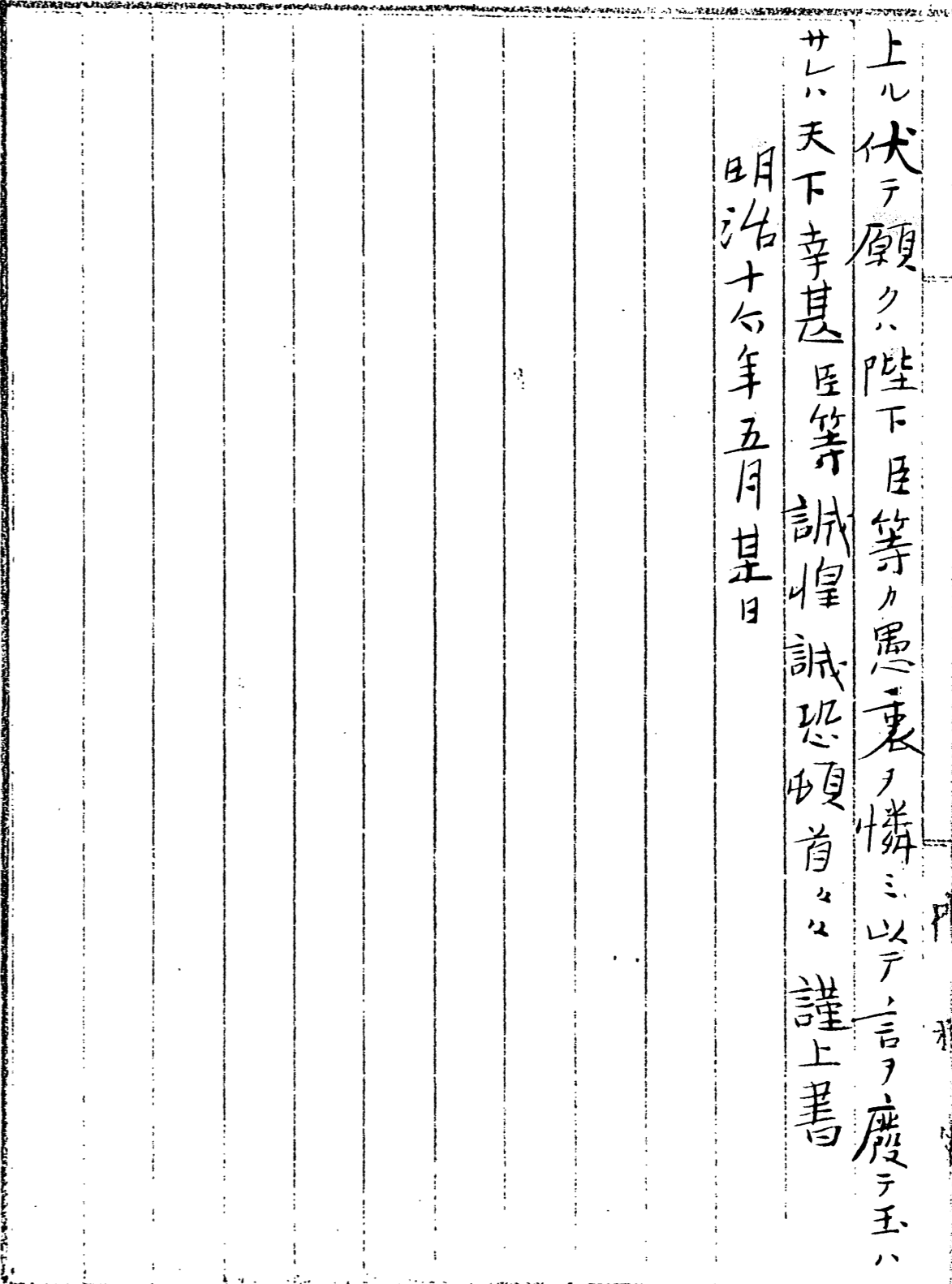
陛下天姿聰明仁慈民ヲ視ルテ傷カ如シテ而テ其効ナキ者
ハ豈祖宗ノ道ニ因ラスレテ悉ク西洋ノ制ニ倣フ故ニ非スヤ夫
西洋ノ國タル貝俗耶蘇ヲ信ス即チ蘇ノ人ヲ教ハ唯天神ヲ尊
テ君父ヲ輕ス是ヲ以テ其民君臣義ヲ知ラス動カモスレハ輒

君民權ヲ争ヒ民勝テハ則チ君ト相約シテ以テ憲法ヲ定メ
己カ意志ヲ逞ス莫民ノ第三顯理ニ於ル佛民ノ第十
六路易ニ於ルカ如キ以テ見ルヘシ故ニ彼ノ史ニ稱ス凡勝ハ
則民自主ヲ得君勝則君自主ヲ得ルト豈我カ上下相親
ニ仁慈風ヲ為スニ域ト曰フ同シテ論スヘキヤ是故ニ洋學
開ケテヨリ民情漸ク彼ノ説ヲ喜ビ立憲ノ 詔下ルニ及テハ
洋風ヲ慕フ者多ク 邪説異言紛々一ラス黨與盛ニシテ
天下和同セス以テ今日ニ至テハ則男女同權ナリ父子同權ナリ
天皇モ人也庶民モ亦人也権理豈ナカレヤト謂フ以テ
朝廷ヲ蔑視スル者殆ト天下ニ洋風ノ令テシテ而テ改メサレハ士
民益ニ窮シ黨與益ニ盛ニ洋風ヲ慕ヒ朝廷ヲ輕スル者
益ニ多ク數年ヲ待テテ或ハ將ニ左辭土崩ノ患アラントス也
年國會開設ノ日ニ至テハ則衆議決セス各黨遂ニ蜂起シテ

佛蘭斯ノ亂ノ如キルハ必然ノ勢ナリ是レ臣等カ日夜歎
息シテ之ニ繼ニ涕ヲ以ラスル所以ナリ願ハ陛下上ハ 宗廟社
稷ノ為ニ之ヲ思ヒ下ハ天下萬民ノ為ニ之ヲ慮リ玉ヒ更ニ詔
ヲ天下ニ下シ洋制ノ禍害アルヲ諭シ玉ヒ祖宗ノ道ニ因リ祖宗
ノ制ニ復シ玉フヘシ然ルニ陛下向ニ詔ヲ四方ニ下シ二十三年ヲ
以テ國會ヲ開ク其トス今又將ニ旧制ニ復セントス 臣等固リ
其難ト知ル然リト虽モ今其弊既ニ已ニ此ノ如シ況ヤ國
會ヲ開ニ及テハ則政体全ク變ハ政体全ク變スハ國体モ亦
隨テ變ス國体變スハ則從今争亂ナカラムモ天下尽ク亡シテ
洋俗トナラン是豈聖子神孫継クヘキノ計ナランヤ故ニ臣等
其難ヲ知ト虽モ敢テ進言シテ止マス
陛下ニ請フ所以ナリ唯 陛下之ヲ察シ玉ヒ臣等一屈ト
身ヲ忘レ國ヲ憂ノ誠ニ勝ヘス 譖越ノ罪ヲ犯シ疎狂言ヲ

上ル伏テ願ク陛_下臣等_カ愚_衷ヲ憐_ミ以テ言_ヲ廢_テ玉_ハ
サレ天下幸甚 臣等 誠惶 誠恐 頓首_{々々} 謹上 書

明治十七年五月某日



別紙内勢御内申
書意_ノ次_ニ供_ス

明治十七年二月廿九日 内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

參議大木喬任殿

上ル伏テ願ク陛下降下臣等カ愚衷ヲ憐ミ以テ言ヲ廢テ玉ハ
サレ天下幸甚臣等誠惶誠恐頓首々々謹上書
明治十七年五月某日

明治十七年二月廿九日 内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

参議大木喬任殿

参議山縣有朋殿

参議伊藤博文殿

参議西郷從道殿

参議井上馨殿

參議井上馨殿

參議山田顯義殿

參議松方正義殿

參議大山巖殿

參議川村純義殿

參議佐木高行殿

參議福岡孝弟殿

上書
百ノ座テ玉ハ

上レ伏テ願ク陛_下臣等カ愚衷ヲ憐ミ以テ言ヲ廢テ玉ハ
サレ天下幸甚臣等誠惶誠恐頓首々々謹上書

參議 大山巖殿

參議 川村純義殿

參議 佐木高行殿

參議 福岡孝弟殿

親第名乙坊九々々
鹿兒島縣下ニ設立アル三洲社ノ
通況長崎縣令ヨリ別紙ノ通當
省警保局長ハ報告有之候ニ
付御參考ノ為メ此致及内
申置候也

明治七年二月廿九日

内務卿山縣有朋



太政大臣三條實美殿